議案１

# 2022（R4）年度

＜2022（R4）/4/1 - 2023（R5）/3/31＞

# 事業報告・活動計算書等

目　次


１　事業報告

（１）全　　体 …… 2ｐ
（２）山口市市民活動支援センター「さぽらんて」…… 5ｐ
（３）ほっとさろん中市「まちのえき」 …… 20ｐ
（４）こども明日花プロジェクト…… 23ｐ

２　活動決算

（１）決算報告書 …… 33ｐ
（２）各種内訳 …… 43ｐ


特定非営利活動法人　山口せわやきネットワーク

# ■令和４年(2022 年)度法人全体事業報告■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15（2003）年 6 月 11 日に法人としてスタートし、15 年目となる平成 30（2018）年 5 月に税制上の優遇措置を受けられる認定資格を取得しました。

この制度をフルに活用し、令和 4（2022）年度も、山口県共同募金会の赤い羽根テーマ募金や、コロナ禍の子育て家庭への支援等に対する協力を呼びかけ、800 万円を超える寄付を集めることができました。

今後もＮＰＯの柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたいと考えています。

事業においては、開設 20 年を経た、**山口市市民活動支援センターさぽらんて**の運営（山口市委託）、高齢者等交流施設**ほっとさろん中市まちのえき**の運営（山口市委託）とも、万全の感染防止対策等により、運営を続けてました。平成 28（2016）年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は、新型コロナ緊急支援に加えて、休眠預金活用事業や日本財団子ども第三の居場所など新規事業が加わり、総事業費が 5,800 万円（対前年 1,700 万円増）と大きく増加しており、寄付金、委託料や民間助成金など、多様な財源を確保し運営しています。コロナ禍でこども食堂の通常開催はできずに、弁当配布等を継続していますが、学習会や居場所事業などは感染対策を行い、通常どおり実施しました。

さぽらんてもまちのえきも、同じく、感染対策は行うものの、活動の制限はなく、個人や団体等による利用もコロナ前の状況に戻りつつあります。

今後も各事業とも、職員や利用者の安全に配慮しながら、円滑な事業実施に努めるとともに、2023 年は法人設立から 20 年になることから、初心に戻り、「市民参加によるまちづくり」の実現に向けた取り組みを続けていきます。

## Ⅰ　会　議

（１）総会

①通常総会

〇日　　時：５月２７日（金）18:00～19:30

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて、オンライン（zoom）

〇出席者数：正会員 10 名（内、書面表決出席 3 名、委任状 3 名）、監事１名、職員１名

〇内　　容：令和３（2021）年度事業報告・収支決算、監査報告

令和４（2022）年度事業計画・活動予算

（２）理事会

①第１回

〇日　　時：５月１２日（木）18:00～20:20

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事 3 名（渡辺理事、高野理事、児玉代表）　職員１名

〇内　　容：＜報告＞令和 4（2022）年度活動予算、職員体制

＜協議＞令和 3（2021）年度事業報告、補正・収支決算、総会等

②第２回

〇日　　時：１１月７日（月）18：00～19：30

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事２名（高野理事、児玉代表）、職員１名　　渡辺理事欠席

〇内　　容：＜報告＞令和４（2022）年度事業経過報告、明日花の助成金活用等について

＜協議＞・賃金規程について（住居手当）

・賞与支給について

＜その他＞・山口市地域福祉計画の策定作業について

③第３回

〇日　　時：３月３日（金）18：00～19：20

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事３名（高野理事、児玉代表　　渡辺理事：zoom 参加）　職員１名

〇内　　容：＜報告＞令和４（2022）年度事業経過報告

＜協議＞令和４（2022）年度決算見込み

令和５（2023）年度事業計画及び活動予算

＜その他＞認定ＮＰＯ法人更新申請（県庁県民生活課）について

（３）監　査

〇日　時：5 月 17 日（火）18：00～19：00

〇場　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

## Ⅱ　事　業

（１）山口市市民活動支援センター「さぽらんて」に関する事業　≪定款事業①②③≫

〇令和４年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の６機能をベースとして事業実施。新型コロナの感染拡大による「一時休館」「貸出自粛」はなく、通常利用であったが、引き続き、感染対策に取り組み、利用者に対して、マスク着用、手指消毒等呼び掛けた。

（２）ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業　≪定款事業①≫

〇令和４度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能として実施しました。特に「高齢者に向けたデジタル情報活用の提案の充実」をメインに取り組んだ。コロナ対策として、引き続き、利用者数の制限、換気、マスク着用等に努めた。また、フリーマーケットは３密を回避するため、常設を継続している。

（３）こども明日花プロジェクトに関する事業≪定款事業②③≫　　※＜＞は財源

〇学習支援・居場所づくり＜山口市委託事業・寄付＞

〇見守り強化事業＜山口市委託事業＞

〇こども食堂支援センター＜山口県委託事業＞
〇ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）＜WAM 助成＞
〇こども食堂・地域食堂、小郡中・宮野中　学校朝ごはん　＜ＷＡＭ助成＞
〇資金調達　委託、助成金のほか共同募金、企業、一般など
〇新型コロナ緊急支援＜ＷＡＭ助成他＞
　・ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」
〇休眠預金活用事業通常 2021「県こども食堂ネットワーク強化事業」＜休眠預金＞
〇日本財団　子ども第三の居場所・Waku② Base（わくわくベース）開設・運営＜日本財団＞

（４）その他の市民活動≪定款事業①②≫
①ホームページの更新
当法人としてのホームページ　https://yamaguchi-sewayaki.com/
各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）
②講師等派遣
特になし

**≪認定ＮＰＯ法人山口せわやきネットワーク定款抜粋≫**
【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。
【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う
①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業
②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業
③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業
④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

# ■令和４(2022)年度山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告■

## Ⅰ　委託契約に基づく事業報告

### １．山口市協働推進プランの位置づけ（抜粋）

（１）目指す協働による地域づくりの姿

地域を思い、人々が集い行動する「地域経営」へ

～共に話し、共に汗をかく～

（将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会を目指す）

地域経営の定義

地域全体で地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けて地域内外の様々な団体が参加、協議し、役割分担しながら、地域の持てる資源（人、もの、金、知恵）を有効活用して地域を動かし、持続的に地域の暮らしを支えていくこと。

（２）前期推進計画

基本事業２　市民活動の育成と支援の強化

推進項目①　市民活動団体への支援の強化

〇新たな基金の創設、ガバメントクラウドファンディング等を活用した新たな財政支援制度の検討

〇NPO 法人の新規設立促進、安定的運営の支援

〇市民活動支援センターを中心に、市民活動団体の人材育成に向けた取り組みを推進

②　市民活動団体と市との連携体制の構築

〇市民活動団体と市の担当課等との円卓会議、話し合いの場づくり

③　市民活動支援センターの機能強化及び環境整備

〇地域と市民活動団体とのマッチング

〇地域住民が市民活動に参画するためのきっかけとなるプログラムの作成

〇子どもや若者の社会貢献活動への参加促進プログラムの作成

〇幅広い世代の市民が交流できる市民活動支援センターの環境整備

〇市民活動支援センターを中心に、高校生や大学生に対して、地域や市民活動等のボランティアのマッチングを行う仕組みづくりの構築

【基本目標】

市民活動団体からの相談対応、伴走支援を基本に以下を重点テーマとする。

個性豊かで活力のある自立した山口市に向けて、

（１）市民意識の啓発・参画の促進

〇市民と市民活動団体とのマッチング

〇HP、SNS によるボランティア情報の充実

〇若者の社会貢献活動への参加促進のプログラムづくり

（２）市民活動団体、地域コミュニティ・企業・行政など多様な主体の連携に向けての話し合いの場づくり

〇テーマ型の円卓会議（テーマ予定：病気と仕事の両立支援など）

（３）ＮＰＯの活動基盤の強化・自立支援

〇事務局への伴走支援

〇情報発信支援

〇リモート会議の支援　など

## 1　施設管理

（１）開　館　日

水曜日及び年末年始（12／29～1／3）、祝日（土日を除く）を除いた日を基本の開館日としている。

開　館　日　数：２９５日

休　館　日　数：　７０日

（２）開館時間

９：３０～１８：００

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は　柔軟に対応

（３）各種手続き書類・フォームの配置

①市民活動団体向け

□登録市民活動団体への提供サービスのしおり　□市民活動団体登録・変更用紙

□会議利用報告書　□ブログ反映機能申請書

□印刷機利用カード　□機材借用書（貸出）

□持込みイベント申込書・報告書　□インターネット使用簿

□窓口業務依頼申請書　□ボランティア募集フォーム

②内部用

□相談内容入力フォーム　□機材貸出予約簿　□拠点利用フォーム

□日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）　□職員業務フォーム

※内部用書類は、kintone アプリを作成し、共有する仕組みを構築

【With コロナ対策】

入口に手指消毒用の消毒液、非接触で測れる検温計を設置。また、電源スイッチや机、椅子などをこまめに消毒、空気清浄機による換気など、利用者への感染防止対策を引き続き行った。

令和 2 年度に整備した、リモートワーク等に係る設備等は継続して活用されたが、会議やイベントなど対面での開催が増えたことから貸し出し件数は以前に比べると減少した。

①リモートでの相談対応

②登録団体が行うリモート会議・講座のサポート

③リモート会議等に必要な備品貸出（Wifi、タブレット、会議用マイクスピーカー、モニター等）

## ２　普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。今年度、地元企業と協働のもと開催した SDGs 関連事業（野菜パウダーを使ったアレンジレシピコンテスト）では、さぽらんて HP や SNS での発信と併せて、企業からも特設サイトや Instagram 開設の協力があった。また、多文化共生や東日本復興関連の活動について動画を作成し YouTube にて配信を行った。その他、団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的と

して、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」など実施後はかわ

ら版も作成し、事後の広報にも努めた。

（１）市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別紹介ミニポスターを作成、掲示。

②ＮＰＯ支援情報…全国の支援情報や NPO 関連図書を配置。

③市外の市民活動情報…全国の支援センターや NPO の情報を配置。

④助成金情報…年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

年間スケジュール、募集中の助成金ラックを設置し、探しやすい工夫をした。

⑤ボランティア情報…外から見えやすい入口付近に専用コーナーを設置した。

⑥中央図書館における市民活動情報ラックの設置･･･さぽらんて情報の他、団体パンフレット等設置。

（２）広報紙等の発行

１年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかわら版を発行し支援内容を伝える他、山口市まちづくりアンケートにある「社会のために何か貢献したい（80.1%）」という市民に対しての啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。引き続き、SNS での発信にも力を入れ、ターゲット毎に Facebook、LINE 公式アカウント、Instagram を使い分け発信した。

①さぽらんて事業情報

〇さぽらんての令和４年度の事業方針及び事業一覧

【対　　象】　登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】　600 部

【形　　態】　Ａ5 サイズ　4Ｐ　手刷り

〇さぽらんてかわら版

さぽらんて事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

〇さぽカフェかわら版　①病気になっても自分らしく働ける社会の実現のために

②多文化共生編（2 期目）

【対　　象】　市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】　1000 部

【形　　態】　Ａ4 サイズ　4Ｐ

②助成金情報

ア．助成金スケジュール保存版の発行

主にさぽらんてに登録している任意団体が利用しやすい山口県域の助成金情報を「助成金スケジュール保存版」として助成金コーナーに配置。

イ．LINE 助成金情報配信

助成金情報配信希望の団体に向け、情報を随時配信。スマホからすぐにアクセスできるよう詳細情報へのリンクを貼り、チラシの画像も添付。

【対　　象】LINE 助成金情報希望団体・登録者１７名へ配信

ウ．Facebook タイムラインの活用

Facebook を利用している団体に向けて、助成金情報をシェア。

③ええやん新聞

身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信することで、この層の新しい価値観との出合いや気づきを刺激していく。さらに社会課題のために自分にもできることがあると思えることで、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【紙面制作での工夫】

〇市民活動をより身近に感じ、共感につながるよう市民広報記者による「市民目線」で発信した。

〇市民広報記者と発行目的を常に共有し、軸がブレない紙面づくりを心掛けた。

〇記者自身の「知りたい！」「伝えたい！」「感動した！」の直感を尊重した。

〇市民広報記者の研修、テーマごとの勉強会や必要に応じて行った。

〇毎号１面では、テーマに沿った社会課題に取り組む「個人の思い」を発信した。

〇各号で「SDGs」の目線も交え、発信した。

【発行内容】

〇発行回数：年 2 回（10 月 1 日／2 月 1 日）

〇発行部数：各号　30,000 部

〇対象：市民（主に 20 代～50 代の子育て世代想定）

〇配布先：小・中学校、市内公立幼育園、一部私立幼稚園、山口市内の大学、21 地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回覧、道の駅、山口市内マルキュウ９店舗、他関係各所（※別紙参照）。

【特集内容・テーマ】

今年度は「家族みんなの健康」をテーマに、前期は主に病気やからだに関すること、後期は悩みを話せる場、聴くことがこころの健康に結びつくことについて発信した。

＜26 号＞　特集：家族みんなの健康～からだ編～

〇ええやんピープル　藤本育栄さん（ポポメリー代表）

〇『からだのサイン』見逃していませんか（山口市健康増進課、NPO 法人あっと、ママバンド、明治安田生命山口営業所）

〇なるほど！なっとく！からだのふしぎ（ドットスタイル、布ナプキン専門店りぼん）

〇腸が変われば人生が変わる（Buchiii.）

〇ええやん新聞×SDGs 連動企画（さぽらんて）

〇クイズ（ヤクルト山陽）

〇編集後記

＜27 号＞　特集：家族みんなの健康～こころ編～

〇ええやんピープル　岩屋紀子さん（難病サポート famiria やまぐち代表）

〇子育ての悩み、誰かに話せていますか？（やまぐち母子健康サポートセンター、やまぐち子育て福祉総合センター、山口市家庭教育支援チーム）

〇話せる仲間を見つけたい…さぽらんてに相談しよう！（kikkake、マザーズスマイル山口、親の会カフェ山口、Happy Education、こころの体温計）

〇こころがモヤモヤしたとき、みんなはどうする？（CAP 西京）

〇SDGs×食育、レシピ（アレルギーっ子の会ぽれぽれ、三笠産業、手作りケーキの店セーラ）

〇クイズ（山口グランドホテル、セーラ）

〇編集後記

【成　果】　市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

| 項　　目 | ２６号 | ２７号 |
|---|---|---|
| より身近に市民活動を感じた(理解･関心が高まった) | 19.4% | 32.4% |
| 社会課題(特集内容)ついて考えるきっかけ、共感につながった | 46.8% | 42.9% |
| 情報提供を活用 | 12.9% | 8.6% |
| はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった | 11.3% | 8.6% |
| さぽらんての周知につながった | 1.6% | 2.9% |
| その他 | 8.1% | 4.8% |

〇やはり表紙の「がん」という文字が読者を引き付けた。そして、その文字と対照的な藤本さんの優しい笑顔が紙面を読んでみようという気持ちを引き立てたようだ。

〇中面を読んで健診が身近に感じられるようになった、ヘルスチェックを受けてみたいという声もあったので、しっかりとそれぞれの記事が読者層に届いていると感じた。

〇年齢層の高い方々からも生理について子どもと話しやすい記事だった、というコメントがあった。

〇読者アンケートを送ってくださった方の半数が３０～４０代の女性だった。子育て中のお母さんたちがピンポイントに知りたい、気になる内容だったといえる。その内容は、岩屋さん親子の記事を読んでこころが動かされた、という感想が圧倒的に多かった。

〇こどものええやんで取り上げた CAP 西京は、コロナ禍のため小学校にワークショップを届けられなくなっているが、ここで子どもたちに向けてのメッセージを贈ることができ、読者にも受け止めてもらえ、紙面が団体活動の補完となった。

（３）ホームページ

ホームページへの来訪者が「ボランティア」ワードでの検索が一番多いことから、トップページにボランティア募集を配置。ネット検索で情報を得やすいように、ボランティア情報を始め、講座レポートやお知らせなど基本情報の蓄積をし、SNS 等での拡散に努めた。

■アクセス数は、76,538 件。実人数 26,964 人。アクティブユーザー数：74 件/日。

①登録団体ブログ反映機能の利用

| | 令和 4 年度 | 令和 3 年度 | 令和 2 年度 | 令和元年度 | H30 年度 | H29 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用団体数 | 322 | 322 | 319 | 311 | 311 | 307 |
| 更新団体数 | 46 | 41 | 47 | 42 | 52 | 52 |
| 年間記事数 | 1585 | 1,310 | 1,460 | 1,561 | 1,362 | 1,766 |

登録団体（322）の基本データは全て掲載。

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：６件　　講座等レポート：１０件　さぽろぐ（ﾌﾞﾛｸﾞ）27 件

（４）ＳＮＳの活用

①Facebook：さぽらんての近況報告及び団体活動を発信。

②Instagram（ボランティア）：主に一般市民に向け、ボランティア募集情報を発信。

③Instagram（ええやん）：主に一般市民に向け、ええやん新聞の裏話などを発信。

④ＬＩＮＥ公式アカウント：登録者に向け、主にさぽらんてでのイベント情報を発信。

| | Facebook | Instagram（ボランティア） | 同（ええやん） | 同（多文化共生） | ＬＩＮＥ |
|---|---|---|---|---|---|
| いいね、フォロワー数 | 940 | 379 | 164 | 146 | 212 |
| 年間記事数 2022.4～2023.3 | 66 | 13 | 41 | 46 | 58 |

（５）情報交流コーナーの活用（「さぽらんて」前面フロア）

①市民活動紹介コーナー：団体紹介ミニポスターを作成し掲示。

②助成金コーナー：展示場所を前面に出しPR。

③ボランティア情報コーナー：ホームページのボランティア情報を印刷し掲示。

（６）マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを実施。

（７）市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」、ええやん新聞取材の裏側などを展示し、幅広い市民に向けて市民活動情報の提供を行った。

【展示内容】・さぽらんてポスター　　・さぽらんて広報紙(ええやん新聞等)

・登録団体活動紹介ミニポスター55 団体　　・団体パンフレット等 29 団体

・発達障害啓発週間（４月２日～８日）　・市民活動団体紹介動画の放映

【展示場所】開催日：令和 4 年 3 月 24 日(木)～4 月 14 日(木)　　場　所：山口市役所ロビー

## ３　相　談

市民活動支援を中心に多様な相談に対応した。特に運営相談はコロナ禍での課題も多くあったが、常に寄り添う支援を基本とし、コロナ禍での各種補助金やオンライン導入に関する相談等にも対応した。また商店街での立地により、市民の活動相談等も多く、相談対応や市民活動団体への橋渡しを行った。

（１）相談・問い合せへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メール、Zoom による相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

〇相談件数　　５２９件　（来所　243 件、　電話等　286 件）

〇問い合せ件数　　２５４件　（来所　254 件、　電話等　83 件）

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は 637 件（グラフ集計総数）

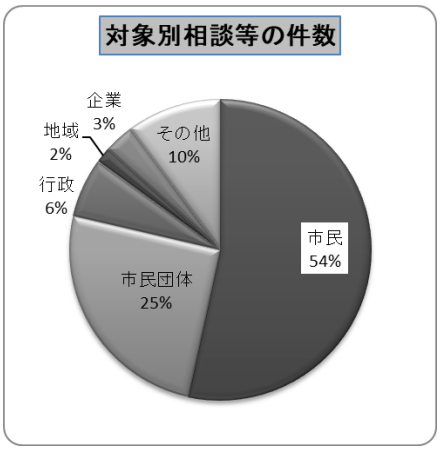
（２）相談・問い合せの内容の一覧化

**【参考】相談等の内訳**

（相談と特記事項がある問合せの一覧を分類したもので、相談数値集計とは一致していません。）

≪対象別≫

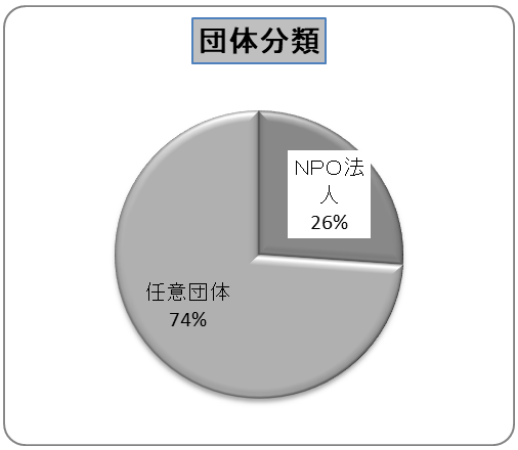
| 対　象 | 件　数 |
|---|---|
| 市民 | 380 |
| 市民団体 | 180 |
| 行政 | 45 |
| 地域 | 12 |
| 企業 | 23 |
| その他 | 72 |
| 合　計 | 712 |




相談総数が増加、特にマッチングや団体情報を求める行政・教育機関、メディアからの問合せの増加が見られ、団体活動の認知度が向上していることがわかる。企業からの相談は微減しているものの、寄付にとらわれない社会貢献の手段の多様化がみられる。

≪団体からの相談分類≫

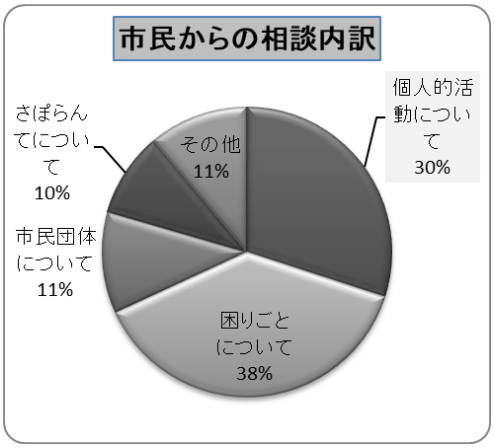
| 団体分類 | 内容 | 件数 | |
|---|---|---|---|
| NPO法人 | 運営 | 19 | 47 |
| | 活動 | 22 | |
| | その他 | 6 | |
| 任意団体 | 運営 | 58 | 133 |
| | 活動 | 57 | |
| | その他 | 18 | |
| 合　計 | | 180 | 180 |




ボランティア募集や協力依頼が増加し、活動がコロナ前に戻りつつあることが見て取れる。団体間のマッチングに関する相談も増加傾向にあり、団体同士が積極的に連携を図っていることがうかがえた。

**≪市民からの相談等内訳≫**

| 内　容 | 件数 |
|---|---|
| 個人的活動について | 114 |
| 困りごとについて | 145 |
| 市民団体について | 43 |
| さぽらんてについて | 36 |
| その他 | 42 |
| 合　計 | 380 |




昨年度と比較すると「個人的な活動」に関する問合せ数が大きく伸び、社会貢献への関心の高まりがみられる。「困りごと」は昨年と同様、犬猫に関する相談が大半を占めたが、猫の譲受やエサの寄付といった団体活動を支援する問合せが増加している。

## ４　人材発掘・養成

市民活動団体の永遠の課題、人材不足・資金不足を解決するための寄付集めや事務力の簡素化、などに焦点を置き講座を実施。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

（１）講座・セミナーの開催

①活動充実講座

| | 講座・研修 | 日付 | 講　師 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＮＰＯのための PBL 講座（全２回） | 8/30、9/15 | 小川仁志　氏<br>山口大学教授 | ４団体<br>14 名 |
| 2 | ボランティア入門講座（全３回） | 4/22<br>5/23、5/27 | さぽらんてスタッフ<br>こども明日花スタッフ | 計 128 名 |
| 3 | 助成金勉強会 | 3/12 | さぽらんてスタッフ | ３団体<br>４名 |

1. 先の予測が立たない「VUCA 時代」においては、時代の変化に応じて課題解決のための手法やその考え方自体の柔軟な転換が求められる。過去のエビデンスに頼るのではなく、本質に立ち返り根源的に考えかつ新しい概念（新規事業）を創造するため、哲学をベースとした PBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）を実施。
2. ボランティア入門講座
   若者のボランティア活動への関心を高め、参加へのきっかけを創出する目的に、市内２大学と連携して出前講座を実施。団体活動の紹介及びチャート診断により、自身の関心と活動のミスマッチの防止を図った。
3. 助成金を得ることは、団体の信頼につながるだけでなく、申請から事業実施、実績報告を通して、公益活動の在り方を学べるという付加価値もあることから、立ち上げ期の団体支援を意識したプログラム内容の勉強会を行った。

（２）市民活動団体への運営支援

任意団体、NPO 法人を含めた運営支援やこれから立ち上げる団体への支援などの寄り添い支援に力を入れた。

①　運営支援　１９団体（NPO 法人４団体、任意団体１５団体）へ５４回

| 内　容 | 団体数 | 回数 |
|---|---|---|
| 団体運営支援（組織、会計、協働など） | １２団体 | ３５回 |
| オンライン講演会開催への支援 | ３団体 | ６回 |
| ブログ開設等支援 | ４団体 | ８回 |
| 事業計画づくり、助成金申請の支援 | ３団体 | ５回 |

②アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」など３つのアワードに２団体・１企業の推薦を行った。

（３）企業×ＮＰＯのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

9 年目を迎えて、それぞれＮＰＯと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

昨年まで参加の美容室については、プロジェクト発起人であった担当者の独立に伴い、店舗として事業の引継ぎが困難なこと、新店舗オープンにむけ経営の安定に時間を要することから今年度は寄付を見合わせることとなった。

【令和４年度実績】

**寄 付 金 総 額　　62,916 円**

**8 年間の寄付総額　　1,698,570 円**

エントリーＮＰＯ法人：①認定ＮＰＯ法人こどもステーション山口
②ＮＰＯ法人あっと

協　力　企　業：①　（株）メルシー
②　木のおもちゃ専門店　リンドヴルム
③　ポーラ Sweet
④　（株）モリイケ

その他の連携：ＮＰＯ法人山口せわやきネットワーク（こども明日花プロジェクト）への「こどもの未来応援企業」提携企業３社、自動販売機設置企業４社

（４）インターンシップ推進事業

山口県インターンシップ推進協議会からの受入れは、夏季・春季に計 3 名を受け入れた。

■推進協議会からの受け入れ 1 回目(2 名、6日間)

〇学　　生　山口県立大学社会福祉学部2年(女子、2名)
〇期　　間　令和 4 年 9 月 5 日(月)～令和4年 9 月 10 日(土)
〇受入団体　協力団体 3 団体

■推進協議会からの受け入れ 2 回目(1 名、4 日間)

〇学　　生　山口芸術短期大学芸術表現学科1年(女子)
〇期　　間　令和5年 2 月 13 日(月)～令和5年 2 月 17 日(土)
〇受入団体　協力団体 3 団体

（５）高校生・大学生リーダー育成事業

高校生と NPO を繋ぎ、身近な地域課題解決のプロジェクト実施を通じて、「自分にも何かができる」「社会の一員として役割を担える」という、高校生の自信と責任を育て、より広い視野を持つ次世代のリーダーの育成を目的とする。また、並行して高校生の学びを支援する大学生メンターの育成も行った。

**【ステップ 1】社会貢献教育プログラム『寄付の教室®』(90 分)**

〇実施日：令和４年５月 29 日（日）14:00～16:00　　■場所：パルトピア（大ホール）
〇対象：山口市在住、もしくは市内に通学の高校生
〇受講者：高校生 12 名（市内３校）
〇NPO：NPO 法人フードバンク山口／青年海外協力隊 OB 会山口支部／かぎしっぽの会

**【ステップ２】課題解決型学習（PBL）全４回実施**

〇参加方法：ステップ１の「寄付の教室」の受講者 2 名以上を含むチーム（最大 4 名）で、別添の NPO 一覧から関心のある地域課題（団体）を選んでエントリー。
〇参 加 者：高校生：１３名４チーム（野田 3 チーム／松風館 1 チーム）
大学生：８名
協力団体：かぎしっぽの会／青年海外協力隊 OB 会山口支部／Kikkake～きっかけ～／Happy Education
〇PBL 指導：黒川康生氏（株式会社丸久人事能力開発部指導役・元防府商工高校教諭）
〇スケジュール　※時間・場所はいずれも 13:00～15:30、さぽらんて

❶令和４年６月 １２ 日（ 日 ）：テーマ設定
❷令和４年７月３日（日）：問題認識　※次回までの宿題に調査、団体ヒアリング等
❸令和４年９月 11 日（日）：課題設定
❹令和４年 10 月 15 日（土）：成果報告会、課題解決策の提案

【夏休み特別講座①・②】

プロジェクト中盤の 8 月には、15 歳～29 歳を対象とした「プレゼンテーション」「ファシリテーション」の基礎講座を実施。社会人や大学生、専門学校生など共に学ぶ中で着実にコミュニケーション能力、伝える力を身につけた。

① 令和４年 8 月 7 日(日)「プレゼンテーショントレーニング」
講師：黒川康生氏　参加者：高校生 5 名／大学生 6 名／一般 2 名（計 13 名）

② 令和４年 8 月 8 日(日)「プレゼンテーショントレーニング」
講師：長浜洋二氏　参加者：高校生 6 名／大学生 4 名／一般 3 名（計 13 名）

（６）ボランティア募集の発信強化

さぽらんてへの相談のうち、「ボランティア活動をしてみたい」が 1 割あり、コロナ禍でボランティアが集まりにくい団体にもニーズがあることから、引き続きボランティア募集の情報発信に努めた。

①ホームページで市民に発信

トップページに新情報を３件ずつ掲載、表示画面も関連画像を加えて視覚的にわかりやすく、情報も項目ごとに整理して掲載した。また、ホームページのボランティア情報を簡単に印刷できるようにした。

②拠点で市民に発信

さぽらんて入口に「ボランティアコーナー」を設置して、ホームページのボランティア情報を印刷し掲示するとともに、持ち帰りできるようにした。随時募集の情報を保存版として 1 枚にまとめて配布した。

③SNS で発信

ホームページに掲載したボランティア募集情報をさぽらんての SNS（Facebook とボランティア情報に特化した Instagram）でも発信し、市民や団体へからも拡散できるようにした。

## 5　協働促進・ネットワークに関する業務

（1）さぽカフェ

地域における様々な課題を行政や関係機関、ＮＰＯなど団体や個人が一堂に会して、情報共有や課題の分析、それぞれの強み・弱み、解決に向けた協働や連携の在り方などの検討を行う「地域円卓会議」としてのさぽカフェについて、2 つのテーマを掲げて実施した。

（テーマ１）病気になっても自分らしく働ける社会の実現のために

第１回　日時：令和４年 7 月 24 日（日）14:00～16:00　　会場：さぽらんて会議室
参加者：11 名（5 団体 5 名、行政 2 名、キャリアカウンセラー他 3 名、さぽらんて 1 名）
内　容：・病気と仕事体験談
・家族の立場から思うこと
・両立支援をする立場から
・個別ワーク「あったらいいなこんなサポート」

第２回　日時：令和４年 8 月 28 日（日）14:00～16:00
参加者：12 名（4 団体 5 名、行政 2 名、キャリアカウンセラー3 名、さぽらんて 2 名）
内　容：・「切れ目のないサポート体制づくり」に向けてケース検討

・病気と仕事を両立するために必要な情報を網羅した情報発信ツールづくり

（テーマ２）「多文化共生」がより身近なものになるような普及啓発とは

第１回　日時：令和４年９月 27 日（火）14:00～16:00　　会場：さぽらんて会議室

参加者：6 名（3 団体 3 名、一般市民 1 名、行政、さぽらんて）

内　容：・啓発展示に向けて対象の絞り込み

・展示内容・広報手段の検討

第２回　日時：令和４年 10 月 25 日（火）14:00～16:00　　会場：さぽらんて会議室

参加者：6 名（3 団体 3 名、行政、さぽらんて）

内　容：・展示内容の詳細の検討　など

上記の内容をまとめたかわら版を発行。

（２）さぽらんて開設 20 周年記念事業

さぽらんてでは SDGs 達成目標年である 2030 年までを「行動の 10 年」として、昨年度より、企業や行政、NPO と協働し、誰でも気軽にアクション出来るチャレンジ企画を実施。今年度は、以前より相談があった地元企業が抱える在庫食品の活用をもって、誰にとっても身近である「食」をテーマに、個人の意識や理解を深めるきっかけ作りとしてレシピコンテストを開催した。

〇実 施 期 間：令和４年７月 15 日（金）～令和４年９月 19 日（月・祝）

〇対　　象：以下の 3 つの部門別に SDGs に関心のある方なら誰でも参加可

❶キッズ部門（※15 歳以下）　❷一般部門　❸NPO 部門

〇応募方法：野菜パウダーを使った料理の写真とレシピに、SDGs 関連タグをつけ、エピソードを添えて専用フォームから応募

〇審査基準：＊手軽で調理がしやすく、材料の入手がしやすいか

＊彩り、盛り付けの見栄えはよいか

＊幅広い年代にとって美味しく、食べやすい料理か

＊アイデアに斬新さはあるか、ネーミングに工夫はあるか

＊SDGｓに関するエピソードが盛り込まれているか

〇入賞作発表：令和 4 年 10 月 7 日(金)

〇表　彰　式：令和 4 年 10 月 15 日(土)

〇協 賛 企 業：株式会社三笠産業

チラシ配布や、専用サイト、Instagram 開設の他、野菜パウダーおよび、各部門の賞品提供、表彰式の運営等でご協力いただいた。

〇応募総数：138 件

（３）その他地域づくり関連事業

①地域協力事業

阿東地域づくり協議会による地域計画づくり体験ワークショップ等をサポート。(1 回)

（４）その他のネットワーク

①　関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議等】

| 日付 | 会議名 | 主　催 | 場　所 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 2022/5/31 | 県民活動ネットワーク会議 | 県民活動支援センター | Zoom | 1名 |
| 2023/3/1 | 県民活動ネットワーク会議 | 県民活動支援センター | Zoom | 1 名 |

【審議会等】

| 日付 | 会議名 | 主　催 | 場　所 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 2022/7/13 | 「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」選考委員会 | 山口県 | 山口県庁 | 1名 |

## 6　市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

（１）市民活動団体登録制度の運用

〇令和４年度末　登 録 団 体 数：３２２団体　（前年度３２２団体）

＜ＮＰＯ法人４１（内認定 NPO 法人３）団体、

その他の法人８団体、任意団体２７３団体＞

新規登録団体数：　１２団体

解 散 団 体 数：　１２団体

（２）登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

・団体ＢＯＸ利用：要望のあった団体に、その都度設置した。

利 用 団 体 数：２４団体

・会議室の提供：利 用 件 数：４０２件

利 用 団 体 数：　３８団体

・市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：１３１件（延べ利用日数１９８日）

利用団体数：１８団体

・印刷機材の提供：利 用 件 数：１６６件

利 用 団 体 数：　３５団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：１８件

③広報支援

〇「さぽらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぽらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：１５団体（偶数月発送作業）

〇マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

〇ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持込まれた団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事に反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：３８４件

| | | | |
|---|---|---|---|
| □ワイヤレスマイク一式 | １６件 | □マルチプロジェクター | ２４件 |
| □スクリーン | ９件 | □パネル | ４件 |
| □イーゼル | ７８件 | □Ｗｉ－Ｆｉルーター | ９件 |
| □延長コード | ２８件 | □スピーカーフォン | １４件 |
| □モニター | ６２件 | □台車 | ４０件 |
| □体温計 | ５０件 | □その他 | ５１件 |

## 7　その他の事業

（１）館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぽらんてでは寄付やカンパを募り、山口市内から東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額　　３６，３３３円

寄　付　先　　①りす会山口

②福島～山口いのちの会

③山口災害救援

上記団体に１２，０００円ずつの配分

**（２）学用品の寄付**

市内外からランドセルや習字道具、文房具等の学用品寄付があり、以下の団体に寄付した。

■寄付先団体

①こども明日花プロジェクト　②国際交流ひらかわの風の会　③青年海外協力隊山口県 OB 会山口支部　④NPO 法人あっと　⑤ドットスタイル　⑥Happy Education

# Ⅱ　運　営

## 1　職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。また、感染対策を徹底した施設管理、利用者保護に努めた。通常時は、ローテーション勤務により平日については４～６名、休祭日については２～３名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館１時間前の 9 時から対応した。

〇事業スタッフ５名（常勤５名）、広報スタッフ３名、学生スタッフ５名

〇ボランティアコーディネーション力３級取得者３名配置

＜NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会認定＞

〇NPO 法人事務力検定初級３名配置

## 2　意見聴取

「さぽらんて」への意見･要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

〇市民活動団体来所時及び相談対応時においての意見の聞き取り。

〇「さぽらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。

〇講座開催時の参加者アンケートによる把握。

〇ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。

〇団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

〇インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

## ３　定例連絡会等

「さぽらんて」設置者の山口市協働推進課と運営ＮＰＯ職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施においてのスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

| 日付 | 内　容 | 担当課 | さぽらんて |
|---|---|---|---|
| 2022/5/9 | 第2次山口市協働推進プランに基づく令和4年度実施事業について | 2名 | 5名 |
| 2022/6/21 | 事業の進捗について | 2名 | 5名 |
| 2022/7/26 | 事業の進捗について | 2名 | 4名 |
| 2022/9/1 | 団体ヒアリングについて、事業の進捗について | 2名 | 5名 |
| 2022/10/7 | 事業の進捗について | 2名 | 5名 |
| 2022/11/10 | 事業の進捗について | 2名 | 4名 |
| 2022/12/15 | 事業の進捗について | 2名 | 3名 |
| 2023/1/23 | 事業の進捗と次年度事業について | 2名 | 5名 |
| 2023/3/16 | 年間事業進捗と次年度事業について | 2名 | 4名 |

## ４　職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。今年度はコロナ影響も緩和され、対面式の講座に参加する機会が増えた。

**研修等一覧**

①　運営支援のための講座・研修等　（17 回のべ 36 名参加）

| 日時 | 内　容 | 主催 | 場所 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 2022/4/21 | 地域づくり２０２５年までに！“待ったなし”セミナー | やまぐち県民活動支援センター | やまぐち県民活動支援センター | 2 名 |
| 2022/5/26 | ″オンライン学びの教室<br>第 1 回業務カレンダー・役員変更・定款とは？″ | やまぐち県民活動支援センター | オンライン | 1 名 |
| 2022/6/17 | センター茶話会【センターの部屋】 | やまぐち県民活動支援センター | やまぐち県民活動支援センター | 3 名 |
| 2022/6/25 | カウンセリングの基本技法 | マツダ財団 | オンライン | 1 名 |
| 2022/7/3 | 山災塾 | 山口災害救援 | 防府市福祉文化会館 | 1 名 |
| 2022/7/15～7/18 | Art of Hosting 福岡・山口 2022 in 岩国 | 一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ | 由宇青年自然の家 | 1 名 |
| 2022/9/11 | 地域経営未来会議 みんなで考える地域経営力の向上とネットワーク組織のあり方 | 山口県 | 山口県総合保健会館 | 1 名 |
| 2022/9/30 | mirai デジタルカレッジ「無料ホームページ作成スタートアップ講座」 | mirai365 | mirai365 | 1 名 |

| 日時 | 内　容 | 主催 | 場所 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 2022/10/20 | ネットセキュリティセミナー＆ミニ茶話会 | やまぐち県民活動支援センター | やまぐち県民活動支援センター | 3 名 |
| 2022/11/22 | 山口市ボランティア連絡協議会交流会 | 山口市社会福祉協議会 | 山口県総合保健会館 | 1 名 |
| 2022/11/25 | 県民活動団体財政・運営基盤強化セミナー「地域課題解決型のふるさと納税制度とその活用事例から学ぶセミナー」 | NPO 法人やまぐち県民ネット 21 | オンライン | 1 名 |
| 2022/11/27<br>～<br>2022/11/28 | 中国５県　支援者向け合同研修秋の陣 | NPO 法人やまぐち県民ネット 21 | パルトピアやまぐち | 5 名 |
| 2022/12/3 | やまぐち遺贈寄付セミナー2022「遺贈寄付の必要性と普及に向けて」 | やまぐち遺贈寄付セミナー2022 実行委員会 | さぽらんて | 3 名 |
| 2022/12/23 | 「中国５県　支援者向け合同研修秋の陣」ふりかえり会＆情報交換会 | やまぐち県民活動支援センター | やまぐち県民活動支援センター | 2 名 |
| 2023/1/29 | かながわ地域日本語教育フォーラム「職場における外国人とのコミュニケーションを考える」 | (公財)かながわ国際交流財団 | オンライン | 1 名 |
| 2023/2/4 | 多文化共生フォーラム「外国人住民と共生するまちづくり」 | （公財）山口県国際交流協会 | オンライン | 1 名 |
| 2023/2/10 | 令和４年度学校におけるがん教育に係る外部講師拡充のためのオンライン説明会 | 山口県 | オンライン | 1 名 |
| 2023/2/11 | ソーシャルビジネスセミナー基礎編 | NPO 法人ほほえみの郷トイトイ | 阿東地域交流センター地福会館 | 2 名 |
| 2023/2/17 | 著作権をわかりやすく解説～引用ルールを知らずに安易なコピペでトラブルに～ | やまぐち県民活動支援センター | オンライン | 1 名 |
| 2023/2/19 | 県民活動アンバサダーTSUNA カン | 山口県 | セミナーパーク | 1 名 |
| 2023/2/26 | 子ども支援 PBL プロジェクト報告会 | 青年海外協力隊山口県 OB 会 | さぽらんて | 1 名 |
| 2023/3/30 | インボイス制度と電子帳簿保存法に関する勉強会 | やまぐち県民活動支援センター | パルトピアやまぐち | 2 名 |

# ■令和４年(2022 年)度ほっとさろん中市「まちのえき」事業報告■

平成１５年４月２０日、市民の交流の場となる施設【ほっとさろん中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成１５～１８年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成１９～２４年度は「“ひと”と“まち”をつなぐ」をテーマに、平成２５～令和元年度は高齢者同士の交流をテーマに、令和２年度からはフリーマーケットも織り交ぜた重層的な交流をテーマにしつつ、特に本年度は「高齢者に向けたデジタル情報活用の提案を充実」を主要テーマとして事業展開を図りました。

開館中は、下記の通り新型コロナウイルス感染症防止対策を実施しました。なお、３月１３日以降は、交流サロン内で会話をする場合と、「まちの保健室」を利用する場合は、マスク着用をお願いしました。

＜「まちのえき」における新型コロナウイルス感染症防止対策＞

〇マスクを着用して入館していただく。
〇入口で手の消毒にご協力いただく。
〇入口での検温にご協力いただき、３７．５度を超えた場合は入館をご遠慮いただく。
〇交流サロンにおいて、席と席の間の距離をできるだけ離し、大きな声での会話はご遠慮いただく。
〇密閉空間にならないよう随時換気を行う。
〇受付コーナー、各テーブル、まちの保健室内、それぞれにアクリル板を設置し、対面での飛沫防止を心掛ける。
〇利用されたテーブルや椅子、トイレのスイッチ等の消毒を適宜行う。
〇トイレ利用時には蓋を閉めて流すように張り紙を掲示。

## Ⅰ　施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

〇開館時間　１０：００～１６：００
〇休　館　日　水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始
〇施設及び備品類の管理
〇利用者統計　令和４年度利用状況参照

## Ⅱ　休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気の提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

〇お茶の提供
〇フリーマーケット in まちのえき

人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。（施設開館日の１０：００～１６：００）

## Ⅲ　健康相談（まちの保健室）

プライバシーに配慮した個室に保健師又は助産師、看護師が常駐（１日１人の当番制）し、血圧測定を行いました（新型コロナウイルス感染症防止対策として、健康相談及び体脂肪測定は休止）。

（１）開室日時　１０：００～１６：００（休室時間１２：００～１３：００）

※水曜日、土曜日、日曜日、祝日、お盆、年末年始は閉室。

（２）会　議

対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました（年３回）。

（３）利用状況　令和４年度利用状況参照

## Ⅳ　情　報

（１）「まちのえき」リーフレット令和４年度版の発行（６３０部）

（２）店頭に情報コーナー設置

（３）情報誌の発行

〇まちのえきだより（月１回　各３５５部）

「まちのえき」からのお知らせ、皆さんから教えていただいた情報、スタッフのつぶやきなどを掲載しました。

〇まちのえきデジタル通信（年３回　各３４５部）

インターネットを活用した新たな交流を目指して、スマートフォンの活用方法などを掲載しました。

（４）情報誌の発送

希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録９名）。

（５）ＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）での発信

「まちのえき」の状況や商店街の様子、スタッフの日常などを発信しました。

〇ツイッター

https://twitter.com/machinoeki

〇インスタグラム

https://www.instagram.com/machinoeki_yamaguchi/

〇フェイスブック

https://www.facebook.com/matinoek/

## Ⅴ　移動機器の貸出

〇貸出日時　施設開館日の１０：００～１６：００

〇貸出状況

・車いす３回　・シルバーカー１回

## Ⅵ　そ　の　他

〇山口市「赤ちゃんの駅」に参加

・４月１日～３月３１日

〇職員が新型コロナ感染症陽性及び濃厚接触者となったため臨時休館

・７月２２日～３１日

## ＜令和４年度＞　ほっとさろん中市「まちのえき」　利用状況

（単位：人）

| | | 開館日 | 利用者数 | 1日平均 | イベント等 | まちの保健室 | 1日平均 | タウンモビリティ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 車いす | シルバーカー | ベビーカー |
| H15～19年度 | | 1,469.5 | 73,607 | 50 | 5,831 | 23,869 | 16 | 198 | ― | 332 |
| 平成20年度 | | 266.5 | 14,019 | 53 | 1,849 | 4,759 | 18 | 41 | ― | 154 |
| 平成21年度 | | 265 | 14,778 | 56 | 2,137 | 5,268 | 20 | 81 | 6 | 67 |
| 平成22年度 | | 267 | 14,536 | 54 | 1,812 | 5,624 | 21 | 39 | 9 | 34 |
| 平成23年度 | | 267 | 17,234 | 65 | 1,487 | 5,562 | 21 | 42 | 9 | 41 |
| 平成24年度 | | 267 | 18,425 | 69 | 1,684 | 6,657 | 25 | 25 | 26 | 31 |
| 平成25年度 | | 267 | 21,759 | 81 | 2,262 | 6,498 | 24 | 32 | 29 | 32 |
| 平成26年度 | | 268 | 23,592 | 88 | 2,769 | 5,829 | 22 | 20 | 31 | 34 |
| 平成27年度 | | 264 | 23,869 | 90 | 2,565 | 5,153 | 21 | 13 | 29 | 30 |
| 平成28年度 | | 267 | 20,275 | 76 | 2,577 | 4,705 | 19 | 11 | 16 | 22 |
| 平成29年度 | | 265 | 19,693 | 74 | 2,629 | 3,683 | 15 | 11 | 11 | 11 |
| 平成30年度 | | 239 | 17,694 | 74 | 2,642 | 3,547 | 16 | 6 | 6 | 4 |
| 令和元年度 | | 224 | 17,176 | 77 | 2,535 | 3,397 | 16 | 8 | 3 | 3 |
| 令和2年度 | | 215 | 13,297 | 62 | － | 2,362 | 12 | 10 | 2 | 0 |
| 令和3年度 | | 222 | 15,603 | 70 | － | 1,651 | 10 | 3 | 4 | 0 |
| 令和4年度 | 4月 | 21 | 1,605 | 76 | － | 166 | 10 | 1 | 0 | － |
| | 5月 | 20 | 1,559 | 78 | － | 155 | 10 | 0 | 0 | － |
| | 6月 | 21 | 1,474 | 70 | － | 134 | 8 | 1 | 0 | － |
| | 7月 | 14 | 808 | 58 | － | 87 | 8 | 0 | 0 | － |
| | 8月 | 18 | 1,129 | 63 | － | 93 | 6 | 0 | 0 | － |
| | 9月 | 20 | 1,307 | 65 | － | 110 | 7 | 0 | 0 | － |
| | 10月 | 21 | 1,761 | 84 | － | 132 | 8 | 0 | 0 | － |
| | 11月 | 20 | 1,660 | 83 | － | 93 | 5 | 0 | 0 | － |
| | 12月 | 20 | 1,418 | 71 | － | 86 | 6 | 1 | 0 | － |
| | 1月 | 19 | 1,210 | 64 | － | 89 | 6 | 0 | 1 | － |
| | 2月 | 18 | 1,184 | 66 | － | 106 | 7 | 0 | 0 | － |
| | 3月 | 21 | 1,621 | 77 | － | 116 | 7 | 0 | 0 | － |
| | 計 | 233 | 16,736 | 72 | － | 1,367 | 7 | 3 | 1 | － |
| 合　計 | | 5266.0 | 342,293 | 65 | 32,779 | 89,931 | 18 | 543 | 182 | 795 |

# ■令和４年度　こども明日花プロジェクト　事業報告（案）■

## Ⅰ　経過・内容

「子どもの貧困問題」の解決に向け、2016 年 5 月 14 日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」の活動７事業年度は、2020 年 2 月から続く新型コロナによるコロナ禍３年目で、引き続き、感染対策を講じ、学習会や居場所づくりは活動を行うことができたが、第 8 波等により、こども食堂の通常開催は未だ、実施できなかった。

コロナ禍に加えて、電気代や食品など物価高騰の影響を受け、家計が厳しいひとり親家庭など子育て家庭を応援する「みんなにエール！弁当」や「ごちそうさまプロジェクト」、さらに、「フードパントリー」なども継続して実施した。

また、各種の民間助成金を活用し、県内全域を対象にしたフードパントリーを継続して実施した。

さらに、休眠預金活用事業の通常枠によるこども食堂ネットワークの強化、日本財団の助成金による「子ども第三の居場所・萩拠点」を開設した。

県委託事業「こども食堂サポート事業」は４年目となり、コロナ禍で会食は難しいものの、「持ち帰り」から始めるこども食堂が増え続けており、引き続き、開設や運営面のサポートを行った。企業や団体からの食品提供も増えており、県内各地域のコーディネーターと連携して、各地のこども食堂に届けることができた。

また、東京の民間企業から、農業支援と併せて、こども食堂支援の提案があり、kintone を活用して、使いやすい申請などのシステムを整備し、助成事業を開始した。

今年５月で活動開始から丸７年となるが、コロナ禍など経験し、困窮する家庭と向き合い、事業継続と、一層の内容の充実等の必要性を感じている。さらに、こども家庭庁発足により、「こどもまんなか社会」実現を目指して、行政も企業、地域が一体となって、取組を進める中、当プロジェクトがこれまでの実績とネットワークをもとに、取組の一層の充実と連携強化をリードする立場として役割を果たすとともに、事業の言語化と丁寧なコミュニケーションにより、理解と支援を広げ、活動の充実強化を図っていく。

〇プロジェクト名　「こども明日花プロジェクト」
〇ビジョン　どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する
〇ミッション
　１．子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの環境を提供し、自立を支援する
　２．身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる
　３．生活困窮など困難を抱える家庭が地域で孤立しないよう見守り、支える

〇事業内容
・「学習支援」無料学習会（食事付き）、リモート学習会
・「生活支援」食事支援（こども食堂）、フードパントリー（食品配布）
・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
・普及啓発・人材育成、地域の包括支援の体制づくり
・生活困窮家庭を支える食料等の提供など

# Ⅱ　事業内容

## 1．学習支援

①　無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内 5 カ所＋1 カ所（阿知須：食事なし）で実施した。

| 会場 | 期間 | 回数 | 延べ参加者数 | ボランティア | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 学習 | 調理 | 合計 |
| 湯田 | 2022.4 ～2023.3 | 44 回 | 247 人 | 108 人 | 110 人 | 218 人 |
| 平川 | 2022.4 ～2023.3 | 33 回 | 112 人 | 45 人 | 62 人 | 107 人 |
| 小郡 | 2022.4 ～2023.3 | 50 回 | 366 人 | 83 人 | 0 人 | 83 人 |
| 大内 | 2022.4 ～2023.3 | 33 回 | 148 人 | 71 人 | 56 人 | 127 人 |
| 宮野 | 2022.4 ～2023.3 | 28 回 | 144 人 | 72 人 | 12 人 | 84 人 |
| 阿知須 | 2022.4 ～2023.3 | 48 回 | 9 人 | ※学習教室スマイルと合同 | | |
| | 計 | 236 回 | 1,026 人 | 379 人 | 240 人 | 619 人 |

※阿知須は 2022 年 4 月から地元団体と合同実施。

※大内会場は、土曜午後は部活等で参加しにくいとの意見があり、9 月 15 日から木曜夕方に変更（夕食準備）し、参加者も増加した。

②　施設への派遣（児童養護施設）

施設入所の児童・生徒の学習補助ボランティアを派遣してきたが、新型コロナ感染拡大以降、中止中。

| 派遣先 | 期間 | 回数 | 学習ボランティア | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 吉敷愛児園 | ― | ―回 | ―　　人 | その他送迎ボランティア |

③　リモート学習会

家が遠いなどの理由で学習会に参加できない中学 3 年生にタブレットと無線ルーター（必要な家庭）を貸し出し、毎週木曜 19～21 時、ボランティアによるリモート学習会を実施（参加者 5 人、4 月 15 日から 3 月 2 日まで、のべ 37 回 152 人参加）した。

## 2．居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの生活・学習支援事業（上記の学習支援の一部を含む）」を受託、毎週土曜（午後３～７時）、小中学生への学習支援と食事支援（夕食）実施。

※感染対策を取り、ほぼ通常どおり実施した。

| 会場 | 期間 | 回数 | 延べ参加者数 | ボランティア | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 学習 | 調理 | 合計 |
| 湯田 | 2022.4～2023.3 | 47 回 | 344 人 | 232 人 | 94 人 | 326 人 |

※「美川ムーバレー・バスツアー」2022 年 10 月 8 日（土）

様々な「体験」の機会を提供するため、毎年、海や山などにバスツアーを実施しており、今年は「美川ムーバレー」で探検など行った（参加 35 人）。

※「新入学記念品」プレゼント

学習支援・居場所づくりに参加の子どもたちや、市内の主任児童委員などから寄せられた情報に基づき、小学校 31 人、中学校 33 人、高校 43 人に記念品贈呈。

## ３．子どもの見守り強化事業（山口市委託事業）

コロナ禍にあって、孤立・困窮する子育て家庭等を弁当配布等で支えた全国のこども食堂などの活動が評価され、2020 年度国の第 3 次補正予算で「こども食堂等が要保護児童対策地域協議会の支援家庭を訪問、状況把握や食事提供（弁当）など」を行う「見守り強化事業」が開始。山口市は 2020 年 10 月から始まり、当法人も委託を受け、各地域の見守り支援員の方々に協力いただき、見守りと弁当配布等に取り組んだ。

## ４．ひとり親家庭への支援（シングルカフェ）

ひとり親家庭の当時者グループ.style（ドットスタイル）との共催で、当事者同士が支援に関する情報共有や意見交換を行ってきたが、コロナ禍が続く中、フードバンク山口などが主催する子育て家庭などへのフードパントリーなどと連携して実施した。

① 12 月 10 日(土)10～12 時　下関市 80 人フードバンク山口主催フードパントリー
② 12 月 11 日(日)14～16 時　長門市 50 人　同上
③ 12 月 18 日(日)14～16 時　岩国市 70 人　同上
④ 1 月 21 日(土)14～16 時　萩市「わくわくベース」40 人萩ほっとパントリー
⑤ 3 月 26 日(日)10～14 時　山口市「さぽらんて」50 人　学用品・パンなど配布会

※「サンタのケーキ便」

コロナ禍のひとり親家庭支援をきっかけに、県内各地に店舗のある「果子乃季（あさひ製菓㈱)」の協力を得て、2020 年 12 月から毎年、開催。2020 年 150 家庭、2021 年 200 個を配布。2022 年は 300 個を目指してクラウドファンディングを実施・達成、ケーキをお届けし、喜ばれた。

## ５．情報発信

① フェイスブック　2016 年４月開設
② ホームページ　　2017 年 1 月開設、ブログ掲載
③ ニュースレター（年３回）令和４年春、夏・秋、令和５年新年
④ 地域情報新聞ほっぷ　2016 年 2 月から、年間数回程度、告知記事を無料掲載
⑤ 令和３年度活動報告（　―　）

## ６．報道

①新聞

6 月 18 日（土）山口新聞「子ども第三の居場所・萩拠点　開所式」
7 月 20 日（水）中国新聞「キッチンカーで子どもに食事を（松風館高校)」
7 月 23 日（土）山口新聞「キッチンカーで食事支援（松風館高校)」
10 月 15 日（土）朝日新聞「Waku②BASE　藤井航平マネージャー」
12 月 30 日（金）読売新聞「年越しパントリー（12 月 29 日)」
2 月 27 日（月）読売新聞「貧困家庭　地域で支える（特集記事)」
3 月 29 日（水）宇部日報「こども食堂推進会議」(県庁)

②テレビ

6 月 17 日（金)「子ども第三の居場所・萩拠点　開所式」NHK 山口放送局
8 月 8 日（月)「アオハルパントリー」(小郡図書館前）KRY 山口放送
8 月 19 日（金)「アオハルパントリー」(山口市中央公園）YAB 山口朝日放送
8 月 24 日（水)「アオハルパントリー（山口市中央公園)」TYS テレビ山口
3 月 28 日（火)「こども食堂推進会議」(県庁）TYS テレビ山口

## ７．普及啓発

① 地域円卓会議

コロナ禍での開催が難しく、前年に続き、開催は見送った。

② 「山口こども応援ミーティング 2022＋」（2022 年 11 月 23 日）

2023 年 4 月「こども家庭庁」設置や「こども基本法」施行に向け、児童福祉が専門で、岡山県の子ども支援団体のネットワーク代表である、川崎医療福祉大学（倉敷市）講師の直島克樹先生にこども家庭庁などに関わる、今後のこどもへの施策や現場で求められる活動などについてお話しいただいた。また、後半は「こども食堂情報交換会」として、コロナ禍で子育て家庭などの支援に取り組む３つのこども食堂の取組事例を紹介後、今後の役割等について意見交換を行った。

日時・場所：2022 年 11 月 23 日（水・祝）13:30～16:30　パルトピアやまぐち(防長青年館)

場所・方法：パルトピアやまぐち（防長青年館）とオンライン併用

内容：第１部　基調講演「子どもの貧困問題、こども家庭庁、こども食堂」

講師：川崎医療福祉大学　講師　直島克樹

第２部　こども食堂意見交換会

１　事例紹介：①ながとルンルン食堂（長門市）

②ＮＰＯ法人とりで（岩国市）

③キッズラップ（宇部市）

２　意見交換（基調講演講師と事例発表者①～③など）

参加者：40 人オンライン含む（行政、社協等関係団体、こども食堂、一般）

③ キッチンカー出動（こども食堂の情報発信）

2021 年 3 月、ＪＴ助成金により購入したキッチンカーが各種イベント等への出店を通じて、こども食堂に対するイメージアップ、情報発信を行った。

・田んぼラグビー：5 月 21 日（土）吉敷地域交流センター

・子ども第三の居場所・萩拠点　プレオープン：6 月 12 日（日）萩市明倫学舎

・松風館高校：7 月 20 日(水)ホットドック、11 月 4 日(金)豚汁、3 月 17 日(金)カレーライス

・アオハルパントリー（パン配布）：8 月 4 日(木)小郡図書館前、8 月 9 日(火)山口市中央公園

・山口矯正展（山口刑務所主催）パン配布：11 月 5 日(土)防府市武道館

・カウントダウンイベント(山口県南中経協主催)カレーライス：12 月 31 日(土)宇部市港町埠頭

## ８．人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手（ヤングワーカー）」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、活動団体訪問や専門家による講演と意見交換を通じて、自ら考え、行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を開催した。今回は久しぶりに、団体訪問を実施でき、オンラインと併せて、大学生を中心に 17 人参加した。

①専門家と意見交換：12 月 2 日（金）夜（オンライン）

講師：NPO 法人こどもソーシャルワークセンター理事長　幸重忠孝

参加者：学生ボランティア、一般　11 人

②団体訪問：12 月 8 日（木）終日

訪問先：（一社）子どもソーシャルワークセンターつばさ（倉敷市）

内容：活動内容の紹介と意見交換、倉敷駅前での活動参加（おむすび配付）

参加者：スタッフ 2 人、学生ボランティア 4 人

## ９．こども食堂・地域食堂プロジェクト

〇こども食堂

2018 年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、2018 年 12 月から山口市内３地域でこども食堂開設、運営している。

2020 年 3 月以降、コロナ禍で通常開催（会食）ができなくなり、休止、あるいは弁当配布やパントリーに切り替えて実施した。

＜開催状況＞　※参加無料、弁当配布は事前申込制

| 地域 | 開催回数 | 献立 | 利用者数 | ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大内 | ９回 | 大内地域交流センター | 806 人 | 90 人 | 896 人 |
| 小郡 | １２回 | 小郡ふれあいセンター | 1,719 人 | 150 人 | 1,969 人 |
| 吉敷 | ０回 | 吉敷地域交流センター | ー人 | ー人 | ー人 |
| 合計 | ２１回 | | 1,946 人 | 145 人 | 2,091 人 |
| ※吉敷 | １２回 | ｴｰﾙ弁当(吉敷地域交流ｾﾝﾀｰ | 2,547 人 | 45 人 | ー人 |

〇小郡中・宮野中「学校朝ごはん」

「朝食を食べてこない」生徒に、ボランティアによる「学校朝ごはん」は小郡中校長の理解と協力により、2019 年６月から毎週水曜に実施したが、新型コロナ以降、感染状況により、実施と再開を繰り返し、2022 年１月から 2023 年 3 月現在、休止中。2020 年 7 月に開始した宮野中学校も、2022 年１月以降、休止している。

〇新型コロナ緊急支援（詳細は別途記載）

コロナ禍３年目も、収入減少等で困窮するひとり親家庭など子育て家庭に対する「フードパントリー（食品配布）」3,163 件、ひとり親家庭対象の「みんなにエール！弁当（のべ 5,724 食）」、「ごちそうさまプロジェクト（678 家庭）」も継続実施した。

## １０．こども食堂サポート事業（山口県委託事業）

こども食堂が地域の子どもたちの居場所としての役割を果たし、また地域において多世代が交流する機能を持つ「こども食堂」について、県は普及促進に取り組み、知事名による「こども食堂応援宣言」の下、「2021 年度末に 100 カ所」にすることを掲げて、2019 年度から開始した「こども食堂サポート事業」を受託し、「山口県こども食堂支援センター」として、こども食堂の運営や開設について中間支援に取り組んでいる。

コロナ禍で、通常開催（会食）ができず、半分近くが休止する一方で、弁当配布やフードパントリーなどで、地域の子育て家庭を支援するこども食堂もあり、さらにコロナ禍でも、新規開設のこども食堂も多く、県内では 160 カ所を超えた。支援センターとして感染症対策の研修、助成金情報提供、寄贈食品等の配布など活動を支援した。

①開設セミナー：当初予定どおり、増員したコーディネーターの地域ごと、7 か所で　開催し、合計 127 人が参加した。

②推進会議：関係機関が子ども食堂に関する情報共有を図り、協力して普及促進を目指す「県こども食堂推進会議」は、1 回（3 月 28 日）開催。

③ボランティア説明会：主に大学生向けの説明会として、３回実施した（12 月 13 日萩市（至誠館大学）40 人、12 月 13 日山口市 10 人、2 月 3 日防府市 13 人）。

④啓発セミナー：あまり普及が進んでいない地域での啓発を図るため、「こども食堂」を始めた近藤博子さんを招き、12 月 9 日岩国市 37 人、12 月 10 日萩市 28 人で実施。

## １１．山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク（事務局）

①県内企業・団体等からの食料品等寄付の受入

ＪＡ山口県から県内こども食堂に県産の新米 6 トン寄付、山口県酪農協同組合から牛乳、山口県パン工業協同組合からパンなど食品等を受け入れ、県内のこども食堂に配布した。また、大和証券（周南支店、下関支店）やエニイタイムフィットネス、生命保険協会山口県協会から寄付金を受領した。

②スキルアップ事業（県子ども子育て応援ファンド助成金「こども食堂特別枠」）

5 月 26 日（木）食品衛生講習会（講師：山口県生活衛生課）33 人

10 月 2 日（日）食から考える防災（講師：空みずきの会　坂本京子さん）19 人

11 月 19 日（土）感染症対策講習会（講師：山口赤十字病院　門屋亮医師）ｵﾝﾗｲﾝ

③食品支援事業（全国こども食堂支援センター・むすびえ「こども食堂基金」、休眠預金活用事業 2021 通常枠　助成金活用）

ア　県下一斉フードパントリー（2022 年 7 月）※こども食堂基金事業

夏休みの食支援を目的に県内 20 カ所 1,150 家庭に食品と米を配布。

イ　フードパントリー・フォローアップ（2022 年 11～12 月）※休眠預金事業

県内 25 カ所のこども食堂がのべ 950 家庭に食品とＪＡ寄付の新米を配布。

ウ　お寺でパントリー（2023 年 3 月）※休眠預金事業

県内 9 地区でお寺の協力（会場）を得て、270 家庭に食品を配布。

④安心安全助成　※休眠預金事業

食品衛生責任者養成講習会受講料、保険料を助成　24 件

⑤こども食堂・農業支援事業（BellAgri㈱からの寄付金）

こども食堂がＪＡ直売所等で購入した食品代金を助成。2022 年度大和証券助成金により整備した kintone のシステムによる申請システムにより、こども食堂の申請手続きを簡素化した。

⑥県ネットワークのホームページ開設

県ネットワークや子ども食堂に関する情報発信とともに、企業や個人等からの寄付（資金や物資）、ボランティア受入等の受け皿となるホームページを開設した。

## １３．新型コロナ対策

各種民間助成金等を利用し、主にひとり親家庭や学生に対する支援を行った。

①みんなにエール！弁当

コロナ禍で、収入減少など困窮するひとり親家庭を応援する「みんなにエール！弁当」は 2020 年 5 月山口市でスタートし、その後、他市でも実施し、萩市、美祢市、光市、下松市の 4 市では各市担当者や社協職員の協力を得て、継続実施した。山口市内がのべ 24 回 4,156 食、4 市で 8 回 1,518 個、合計 32 回 5,674 食配布。

なお、弁当は県飲食業生活衛生同業組合の協力を得て、地元の料飲組合が紹介した飲食店等に注文し、お米はＪＡ山口県山口統括本部で購入し配布した。

②ごちそうさまプロジェクト

ひとり親家庭の「食」支援として、「宅食（食料品の託送）」「食事券（地元料飲組会の協力）」「買物券（丸久）」「お米（県産新米を配達）」を直接、各家庭に届けることとし、丸久、県飲食業生活衛生同業組合、ＪＡ山口県の協力の下、実施した。

7 月から 8 月まで 3 回、募集し、結局、申込のあった全 678 家庭に届けた。

④　フードパントリー

昨年に続き、コロナ禍の子育て家庭を支援するため、7 月、県内各地域のこども食堂と連携した「県

下一斉フードパントリー」実施(20 カ所、1,150 家庭)、11 月から「フォローアップパントリー」として、こども食堂 25 カ所が 750 家庭に配布。

山口市では、2021 年 11 月から継続して、毎月、主にひとり親家庭約 50 家庭に定期パントリーを実施（のべ 493 家庭)。なお、事務所内に常設パントリーを設置、随時利用に対応した。

④学生パントリー

バイトや仕送り減少で困窮する大学生へのパントリーについて、昨年度に続き、山口大と山口県立大で実施。山口大では、大学基金が共催（費用半分負担）し、本部・医学部・工学部でのべ 3 回実施（400 人)、県立大は 100 人に配布した。

## １４．子ども第三の居場所・萩拠点

①事業概要

萩市が萩明倫学舎内に「学びと交流の拠点」を公募するにあたり、山口市内での学習支援や居場所づくりのノウハウを生かして、地元の行政や関係機関、団体等を連携して、拠点づくりを行うに際し、日本財団が全国 500 か所を目指して、推進する「子ども第三の居場所」助成事業に申請・採択（コミュニティモデル）された。

・開所日：2022 年 6 月 17 日(金)

・事業内容：・コミュニティカフェ（誰でも使えるカフェ、子どもの居場所）
　　・シェアキャンパス（中高生との自由学習スペース）
　　・昼食付き勉強会（毎週土曜実施）
　　・こども食堂（毎月 1 回実施、1 回 80 食程度）

・運営体制：センター長（非常勤)、マネージャー、スタッフ、調理ボランティア、
　　学習支援ボランティア（大学生など）

・支援体制：運営サポート委員会（行政、関係機関、団体等で構成。年 4 回程度）

・利用実績：利用のべ人数 3,259 人（子ども 1,995 人、大人 1,264 人）16.6 人/日
　　こども食堂　11 回開催、のべ 570 食（196 家庭）
　　勉強会　25 回開催、のべ 143 人
　　各種イベント：26 回実施、のべ 583 人参加
　　ほっとパントリー(ひとり親家庭対象）2023 年 1～3 月のべ 110 家庭
　　運営サポート委員会（委員 9 人、3 回開催）
　　大人の学習会（至誠館大学協力による関係者の勉強会）3 回

## １５．資金調達

①　助成金等申請

・福祉医療機構「令和４年度（補正予算）ＷＡＭ助成」＜1 年目・採択＞
・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ募金：７期）＜採択＞
・日本財団子ども第三の居場所助成金（萩明倫学舎　2 年目運営費・車両）＜採択＞
・休眠預金活用事業通常枠（むすびえ）3 年間＜2 年目　採択＞
・中央共同募金会（学習支援と生活支援事業）＜採択＞
・厚生労働省「ひとり親家庭等食事支援事業」助成金＜採択＞こども宅食応援団

【新型コロナ対策】

・山口県共同募金会緊急支援（アオハルパントリー）30 万円

②子どもの未来応援企業（３社）
・2016 年（株）池田建設、サン・ロード（株）
・2017 年（株）ＴＡＭＡＲＵ
③募金箱（50 ヶ所）
④寄附付自動販売機（４台）　※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）
・2016 年　サン・ロード（株）、防長苑
・2017 年　マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

〔参考〕主な活動

2022 年 ４月１５日　ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当（吉敷）」2022 年度開始
「子ども第三の居場所・萩拠点」開設に向け地元ワークショップ開催
４月１７日　小郡みんな食堂・大内みんな元気食堂　2022 年度開始（持ち帰り）
「定期パントリー（平川地域交流センター）」2022 年度開始
４月１８日　山口県共同募金会「テーマ募金」助成金交付式
５月　７日　キッチンカー納車（ＪＴ日本たばこ産業㈱助成金事業）
５月１３日　山口南ロータリークラブ例会「卓話（こども食堂）」
６月１２日　日本財団・子ども第三の居場所・萩拠点　プレオープン
６月１７日　〃　Waku②BASE　開所式
６月２１日　萩市民生委員児童委員協議会児童福祉部会で萩拠点紹介（福祉ｾﾝﾀｰ）
６月２４日　萩拠点　萩ミート㈱お肉寄付贈呈式（萩市明倫学舎）
６月２５日　萩拠点「こども食堂」スタート
７月　３日　しんぐるまざーず・ふぉーらむ全国大会で説明（維新ホール）
７月　８日　萩拠点　第１回運営サポート委員会開催（9 月 22 日、1 月 26 日）
「ごちそうさまプロジェクトプラス」募集開始（7 月 22 日、8 月 5 日）
７月１２日　山口県議会環境福祉委員会視察「小郡みんな食堂」（ふれあいｾﾝﾀｰ）
７月１４日　大和証券グループ（周南・下関支店）県ネットワーク寄付金贈呈式
７月２０日　県立松風館高校にキッチンカー出動（ホットドック 100 本）
７月２３日～３１日「県下一斉フードパントリー」実施（20 か所 1,150 家庭）
７月２６日　萩拠点「夏休み体験イベント」開始（8 月 26 日まで 12 回）
７月２９日「こども食堂開設セミナー(県庁)」、以後、全 9 カ所で開催
８月　４日　高校生等「アオハル・パントリー」（山口市立小郡図書館）取材
８月　９日　〃　「アオハル・パントリー」（山口市中央公園）取材
８月１８日　萩拠点「コープ葬祭」米保冷庫　寄付贈呈式
８月１８日・２５日「みんなにエール！弁当 in 萩」実施
８月２８日　日本テレビ（山口放送）２４時間テレビイベント協力（防府イオン）
９月１０日　萩拠点　学習会開始（毎週土曜・昼食付き）
９月１１日　東京シティバレエ団公演招待（シンフォニア岩国）むすびえ協力
９月１５日　大内学習会　土曜昼から、金曜夕方に変更（大内地域交流センター）
９月２８日　明治安田生命山口支社　寄付金に対して感謝状贈呈
セフティワン(有)寄付金に対して感謝状贈呈
９月３０日「みんなにエール！弁当 in 美祢市」（市内３カ所）2 回目 3 月 24 日

１０月　１日　こども食堂地域コーディネーター研修会（維新ホール）
１０月　２日　こども食堂ファンドレイジング研修会（萩市明倫学舎 Waku②BASE）
１０月　８日　美川ムーバレー・バスツアー
１０月１３日　やまぐち子育て連盟総会「こども明日花プロジェクト」事例紹介
１０月３０日～12 月 18 日フォローアップパントリー(こども食堂 22 か所 750 家庭)
１１月　４日　松風館高校文化祭「キッチンカー」豚汁提供
１１月　５日　山口刑務所主催「山口矯正展」キッチンカー(パン配布)防府市武道館
１１月１１日・12 月 9 日「みんなにエール！弁当 in 下松市」
１１月２２日・12 月 16 日「みんなにエール！弁当 in 光市」
１１月２３日　こども応援ミーティング＆こども食堂情報交換会（防長青年館）
１１月２６日　萩拠点「新米を食する会」（協力：JA 山口県萩統括本部・井上商店・村田蒲鉾）
１１月２８日　県ネットワーク　エニイタイムフィットネス寄付贈呈式（山口市）
１１月２９日　佐賀県「さがこども応援プロジェクト」研修会講師（佐賀市）
１１月３０日　山口大学でフードパントリー開催（本部、1 日工学部、2 日医学部）
１２月　２日　「サンタのケーキ便」受付開始(県内 300 家庭に抽選）ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ
１２月　２日　あすはなカレッジ「こどもソーシャルワークセンター　幸重忠孝理事長」
（オンライン）
１２月　２日　こども食堂「伴走支援」研修会（周南市役所・ちるちあネット）
１２月　３日　遺贈寄付セミナー（さぽらんて）
１２月　８日　あすはなカレッジ「こどもソーシャルワークセンターつばさ」(倉敷市)
１２月　８日　こども食堂啓発セミナー「だんだん近藤博子さん」（岩国市）
１２月　９日　〃　〃　（萩市明倫学舎）
１２月１３日　ボランティア説明会（至誠館学生：萩市）他山口市・防府市
１２月１９日　「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式（山口県共同募金会）
１２月２２日　ＪＡ山口県から県内各こども食堂にお米 6 トン寄付贈呈式（ＪＡ）
１２月２９日　年越しパントリー（200 家庭）＋お節セット（誠和寄付 100 セット）
2023 年 1 月　「赤い羽根テーマ型募金（2022 年度)」募集開始（～３月末）
1 月２１日　萩拠点「萩ほっとパントリー（ひとり親家庭 40)」2 月・3 月
1 月２７日　山口県立大学でフードパントリー開催（100 セット）
1 月２９日　中国地方こども食堂ネットワーク会議（オンライン参加）松江市
2 月　４日　全国こども食堂支援センターむすびえ「全国交流会」（オンライン）
2 月２５日～3 月 5 日　「お寺でパントリー」（県内 9 地区のお寺で 270 セット）
3 月　２日　熊本県こども食堂ネットワーク研修会　講師（熊本市）
3 月　９日～10 日　休眠預金 2021 通常枠　実行団体研修会（5 団体）引受
3 月１６日　山口県社協「地域福祉推進研修会」講師（オンライン）
3 月１７日　松風館高校「キッチンカー」カレーライス 100 食
3 月２８日　第６回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）

＜会議・講演等＞　35 回　959 人

| 時期 | 対象・名称 | 場所 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 2022.5.13 | 山口南ロータリークラブ例会　卓話「こども食堂」 | ホテルニュータナカ | 30 人 |
| 6.21 | 萩市民生委員児童委員協議会児童福祉部会　説明 | 萩市総合福祉センター | 30 人 |
| 7. 3 | しんぐるまざあずふぉーらむ全国大会　報告 | 維新ホール | 50 人 |
| 7. 8 | 萩拠点　第 1 回運営サポート委員会（全 3 回） | 萩拠点 Waku②BASE | 26 人 |
| 7.12 | 山口県議会環境福祉委員会　視察　説明 | 小郡みんな食堂（ふれあいセンター） | 20 人 |
| 7.29 | こども食堂開設セミナー（全 7 回） | 県庁共用会議室 | 60 人 |
| 7.14 | こども食堂　ボランティア説明会（全 2 回） | オンライン | 25 人 |
| 10. 1 | こども食堂コーディネーター研修会 | 維新ホール | 10 人 |
| 10. 2 | こども食堂ファンドレイジング研修会 | 萩拠点 Waku②BASE | 10 人 |
| 10.13 | やまぐち子育て連盟総会　事例紹介 | 防長苑 | 50 人 |
| 11.23 | こども応援ミーティング＆こども食堂情報交換会 | パルトピアやまぐち防長青年館 | 50 人 |
| 11.29 | さがこどもプロジェクト　研修会講師 | 佐賀市 | 70 人 |
| 12. 2 | こども食堂「伴走支援」研修会 | 周南市役所（ちるちあネット） | 40 人 |
| 12. 2 | あすはなカレッジ「幸重忠孝さん」（大津市） | オンライン | 12 人 |
| 12. 3 | 遺贈寄付セミナー | さぽらんて | 20 人 |
| 12. 8 | こども食堂啓発セミナー「近藤博子さん」 | 岩国市・12/9 萩市 | 80 人 |
| 12. 8 | あすはなカレッジ　活動団体訪問<br>「こどもソーシャルワークセンター-つばさ」 | 倉敷市 | 6 人 |
| 12.13 | こども食堂　ボランティア説明会（全 3 回） | 萩市至誠館大学・山口・防府 | 65 人 |
| 1.29 | 中国地方こども食堂ネットワーク会議 | オンライン | 15 人 |
| 2. 4 | 全国こども食堂支援センターむすびえ全国交流会 | オンライン | 150 人 |
| 3. 2 | 熊本県こども食堂ネットワーク研修会講師 | 熊本市 | 10 人 |
| 3.9～10 | 休眠預金通常枠 2021 むすびえ「実行団体（5 団体）研修会」引受 | なのはなハウス | 25 人 |
| 3.16 | 山口県社協「地域福祉推進研修会」講師 | オンライン | 80 人 |
| 3.28 | 県こども食堂推進会議 | 山口市（県庁） | 25 人 |